

類設計室 東京設計事業部

共創プロジェクト拠点「Root」「Base」「Soil」が

2026 年度グッドデザイン賞を受賞しました

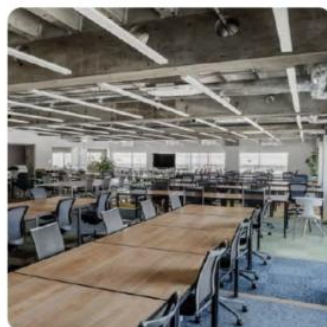
株式会社類設計室（本社：大阪市淀川区、代表取締役社長 岩井裕介）の東京設計事業部が設計した自社共創プロジェクト拠点 [類設計室 東京本社 Root/Base/Soil] が、公益財団法人日本デザイン振興会が主催する 2026 年度グッドデザイン賞に受賞しました。



ROOT+



Soil



BASE

東京本社のコンセプト「ともに成長し、つくる場」

建築設計に加え、教育・農園などの多事業を展開する弊社が、複雑化する社会課題に応える共創拠点として東京本社の 3 フロアを改修。それぞれのフロアを共創・挑戦・追求の 3 つのテーマに設定し「Root」「Soil」「Base」の愛称をつけました。「こども建築塾」の取組や企業間の交流を通して、誰もが手応えを感じ未来を動かす原動力となることを志し、「ともに成長し、つくる場」として、地域に根差しながらも広く社会に開かれた共創拠点を目指しました。

それぞれの施設に込められたもの

Root 一本源から共創がはじまる場

大勢でのオンライン会議を可能とした音響設備や映像設備の導入をしながらもノイズレスなデザインに

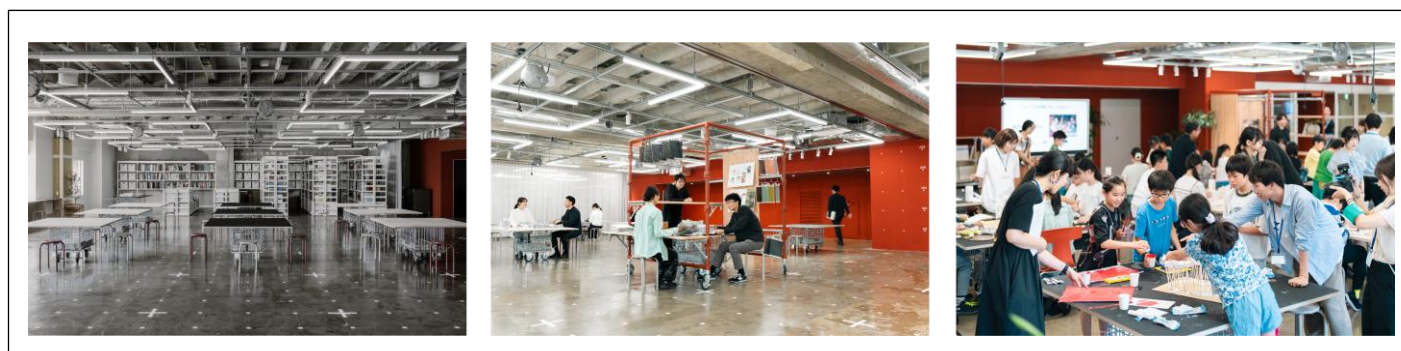
落とし込み、自社保有林の間伐材や自社農場の廃棄野菜を用いたタイルなどの自然素材を取り入れ、心理的な心地良さの向上を実現させました。



写真：坂本泰士

Soil – 思考を耕す実験の場 –

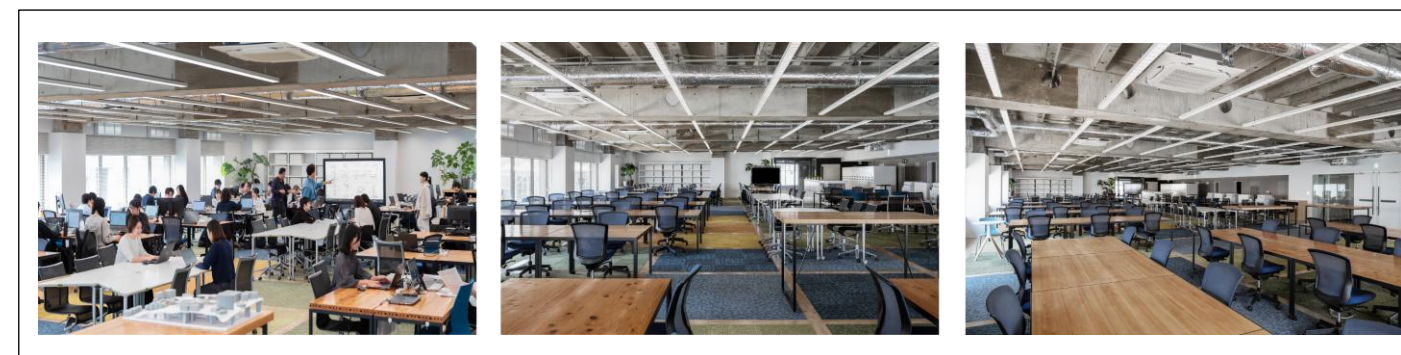
空間全体を「未完成の設え」とし、アイデアを具現化するための余白を持たせています。什器には建設資材や工業製品を活用し、目的に応じて柔軟に形態を変えられる機能性やハードユースな活動を支える耐久性を備えたデザインを実現。「こども建築塾」では子ども達が本物に触れられる場としても機能しています。



写真：(左) (株)エスエス(石川歩)、(中央・右)坂本泰士

Base – 進化を続ける追求の場 –

自社農園の自然素材や有機 EL 照明を利用し、集中の持続と心理的効果の両立を実現。「自分たちの生きる場を自分たちでつくる」という創業時からの企業理念が生きたデザインとしました。



写真：(左)坂本泰士、(中央・右)(株)エスエス(石川歩)

これまでのフロア活用の様子を一部紹介



(左から：共創シンポジウム（Root）、こども建築塾東京 3days、南端東京、メーカーズコロシウム)

2026 年グッドデザイン賞 審査員コメント

異なるデザインの 3 フロアからなる共創拠点である。各フロアには共創・挑戦・追求というテーマが設定されており、共創フロア（6 階 Root）では自社事業の現場にある素材を活用した空間、挑戦フロア（3 階 Soil）では建設資材を用いた未完成の空間、追求フロア（4 階 Base）では均質で機能的な執務空間が用意されている。

これらの空間的差異があるからこそ、ワーカーたちは目的に応じて能動的に移動し、3 フロアを循環しながら社内外の共創を実現していくのであろう。またどのフロアも徹底的にフレキシビリティが高められており、可動家具を動かした際にもレイアウトしやすいよう床にガイドとなるグラフィックを施すなど、運用上の細かい配慮も素晴らしい。

◆グッドデザイン賞について

1957 年創設のグッドデザイン商品選定制度を継承する、日本を代表するデザインの評価とプロモーションの活動です。国内外の多くの企業や団体が参加する世界的なデザイン賞として、暮らしの質の向上を図るとともに、社会の課題やテーマの解決にデザインを活かすことを目的に、毎年実施されています。

<https://www.g-mark.org/>



会社概要

類設計室

活力ある社会をめざして、株式会社類設計室（読み：るいせつけいしつ）は、21 世紀を牽引するお客様の戦略パートナーとして活力あふれる空間を設計しています。さらに「社会の活力を生み出す」という視点から、新しい教育・農業にも取り組んでいます。

<会社概要>

ミッション : 活力ある社会を設計する
会社名 : 株式会社 類設計室
設立 : 1972 年

代表取締役社長 : 岩井 裕介

所在地 : 大阪府大阪市淀川区西中島 4-3-2 類ビル（大阪本社）
: 東京都大田区蒲田 5-38-3 蒲田朝日ビル（東京本社）

事業内容 : 設計事業部 類設計室、営繕事業部、教育事業部「類塾プラス」「類
学舎」「自然学舎」「しごと学舎」、農園事業部 類農園、地域共創事業部 類宅配の 5
業態を展開しています。

URL : <https://www.rui.ne.jp/>